

消 防 統 計 資 料

(令和2年)

住宅用火災警報器 交換のおすすめ

10年たったら、
とりカエル。



とりカエル君

Niihama City Fire Department
新居浜市消防本部

〒792-0025 新居浜市一宮町一丁目5番1号

TEL:0897(34)0119 FAX:0897(34)1189

URL: <http://www.city.niihama.lg.jp/>



～住宅用火災警報器は

10年を目安に取り換えましょう～



住宅の寝室や階段室に設置されている住宅用火災警報器は、平成18年の法令改正で消防法及び新居浜市火災予防条例により設置が義務となり、10年を経過しました。電池寿命が10年の住宅用火災警報器は、電池切れの時期になりますので、電池や本体交換が必要です。

市内においても電池切れのアラームが鳴動したり、作動確認した際に音が鳴らなかったり、故障を知らせる音声が鳴るなどの事例が発生しています。

次の方法で、交換時期の確認や、定期的な作動確認をすることで、適切な維持管理をいたしましょう。

【設置時期を調べるには】

1. 住宅用火災警報器本体に記載されている「製造年」を確認する。
2. 住宅用火災警報器を設置した際に、本体に記入した「設置年月日」を確認する。

【作動確認について】

1. 月に1回程度定期的に作動確認を行ってください。
2. 住宅用火災警報器についている「ボタンを押す」または「ひもを引く」

警報音が適正に鳴る⇒正常

警報音が鳴らない又は故障を知らせる⇒電池交換又は故障

※ 作動確認が出来ない場合は、取扱説明書をよく読み、電池（本体）を交換するか、メーカーに問い合わせる。

【交換するには】

持ち家…家電販売店、ホームセンター等で購入

(日本消防検定協会の検定品)

借家…大家若しくは管理会社に連絡し相談

目 次

	火 災	ページ
1.	火災概況	1
2.	火災種別	2
3.	建物用途別件数	2
4.	月別火災件数	3
5.	時間帯別火災件数	3
6.	曜日別火災件数	4
7.	覚知方法別火災件数	4
8.	校區別火災件数	5
9.	月別原因別火災件数	6
10.	死傷者の発生状況	7
11.	初期消火の状況	7
12.	10年間の火災概況(平成23年～令和2年)	8
13.	消毒用アルコールの安全な取扱いについて	9

救 急

1.	救急活動状況	10
	(1) 地区別救急出動件数の推移	11
	(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況	11
	(3) 事故種別救急出動状況(月別)	12
2.	応急手当普及啓発活動	13
3.	救急車適正利用のお願い	13
4.	救急支援情報サービス	13

救 助

1.	救助概況	14
2.	救助活動状況	14
3.	救助統計	15
4.	過去5年間の救助概況	16

火 災

1. 火災概況
2. 火災種別
3. 建物用途別件数
4. 月別火災件数
5. 時間帯別火災件数
6. 曜日別火災件数
7. 覚知方法別火災件数
8. 校區別火災件数
9. 月別原因別火災件数
10. 死傷者の発生状況
11. 初期消火の状況
12. 10年間の火災概況(平成23年～令和2年)
13. 消毒用アルコールの安全な取扱いについて

1. 火災概況

令和2年中の火災件数は24件で、前年比較すると5件減少しています。これは約15日に1件の割合で火災が発生したことになります。

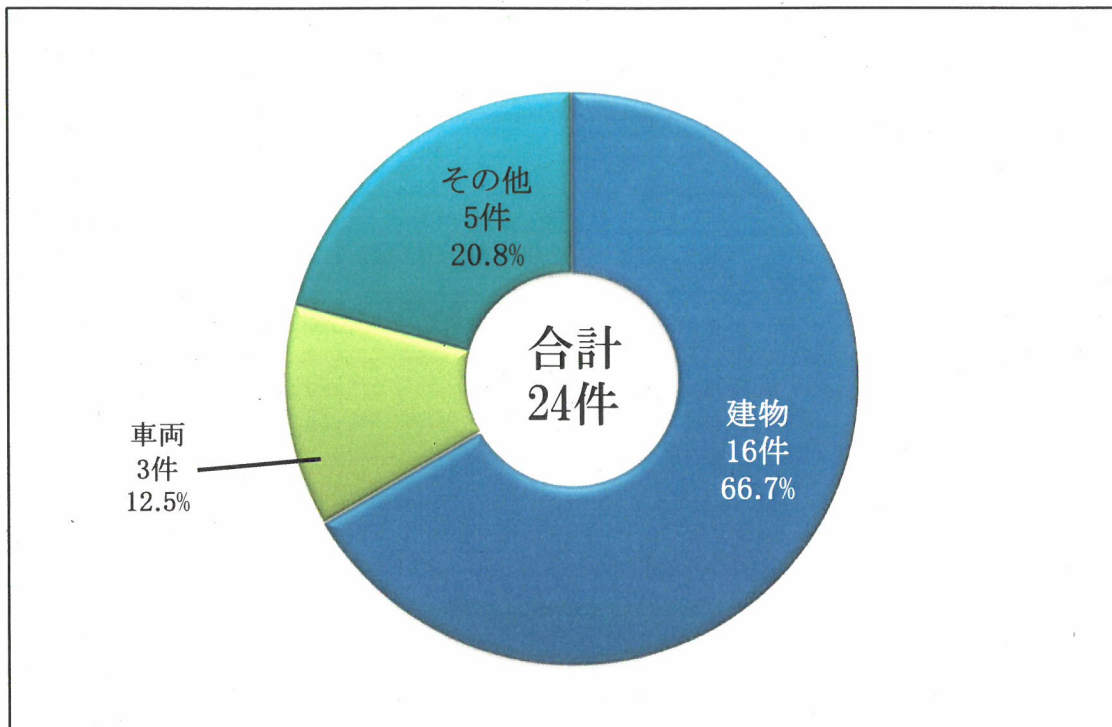
火災による死者は1人（前年3人）、負傷者3人（前年3人）建物焼損棟数は39棟（前年53棟）、建物焼損床面積は1324.05㎡（前年2620.86㎡）となっています。また、火災による損害額は154,867千円で、前年と比較すると7,868千円減少しています。

区 分	単 位	令和2年	令和元年	増 減	
出火件数	出 火 件 数	件	24	29	▲ 5
	建 物	〃	16	20	▲ 4
	林 野	〃	0	0	0
	車 両	〃	3	1	2
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	5	8	▲ 3
損害額	合 計	千 円	154,867	162,735	▲ 7,868
	建 物	〃	142,964	157,312	▲ 14,348
	林 野	〃	0	0	0
	車 両	〃	867	300	567
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	11,036	5,123	5,913
焼損棟数	合 計	棟	39	53	▲ 14
	全 焼	〃	14	23	▲ 9
	半 焼	〃	0	1	▲ 1
	部 分 焼	〃	6	13	▲ 7
	ぼ や	〃	19	16	3
焼損面積	建物焼損床面積	㎡	1324.05	2620.86	▲ 1296.81
	建物焼損表面積	〃	25.42	201.58	▲ 176.16
	林野焼損面積	a	0.0	0.0	0.0
死傷者	死 者	人	1	3	▲ 2
	負 傷 者	〃	3	3	±0
	負傷者のうち30日死者	〃	0	0	0
り 災	世 帯 数	世 帯	29	28	1
	人 員	人	55	56	▲ 1
出 火 率			2.04	2.44	▲0.31

※出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。▲は、減少を示す。

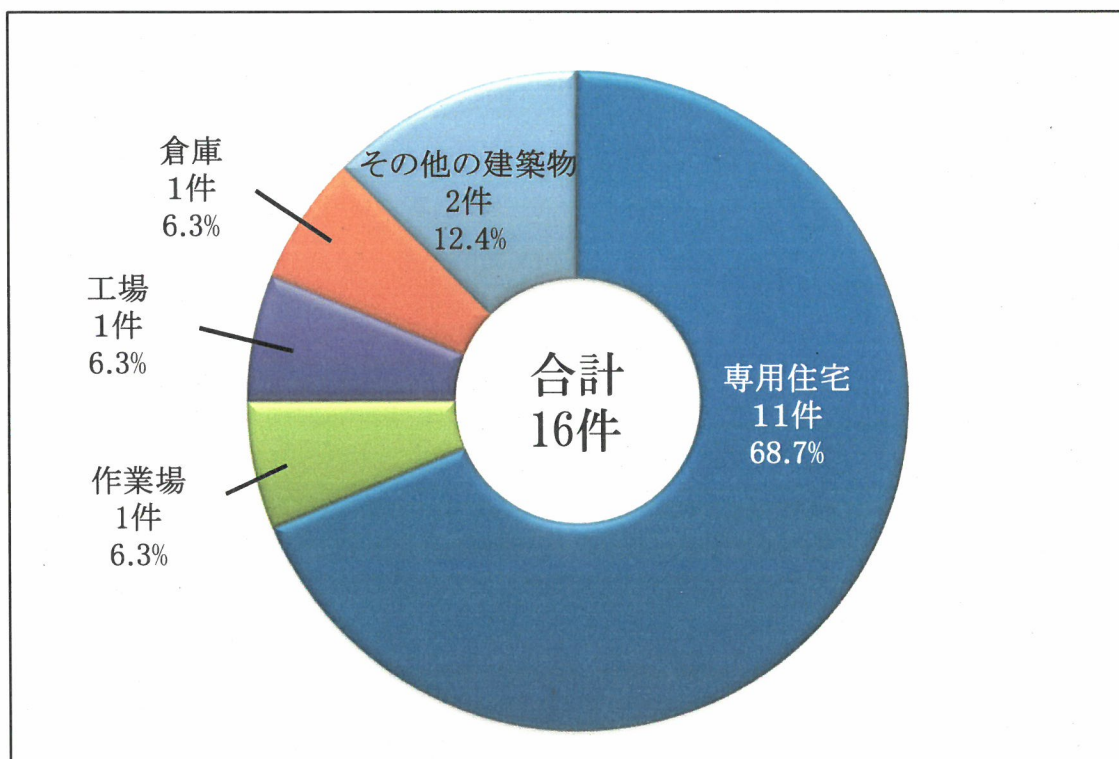
2. 火災種別

火災種別ごとの件数をみると、建物火災が16件（66.7%）で全火災の約7割を占めており、次いでその他の火災が5件（20.8%）、車両火災が3件（12.5%）となっています。



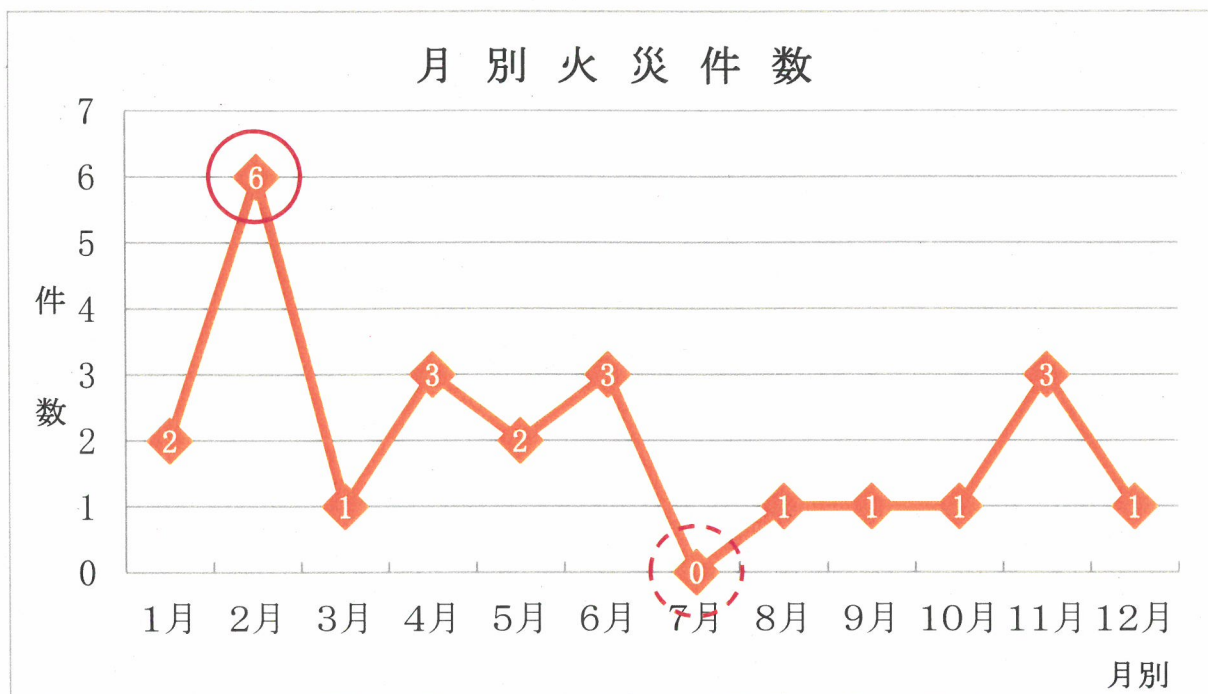
3. 建物用途別件数

建物火災を用途別にみると、住宅火災が11件と最も多く、建物火災の約7割を占めています。



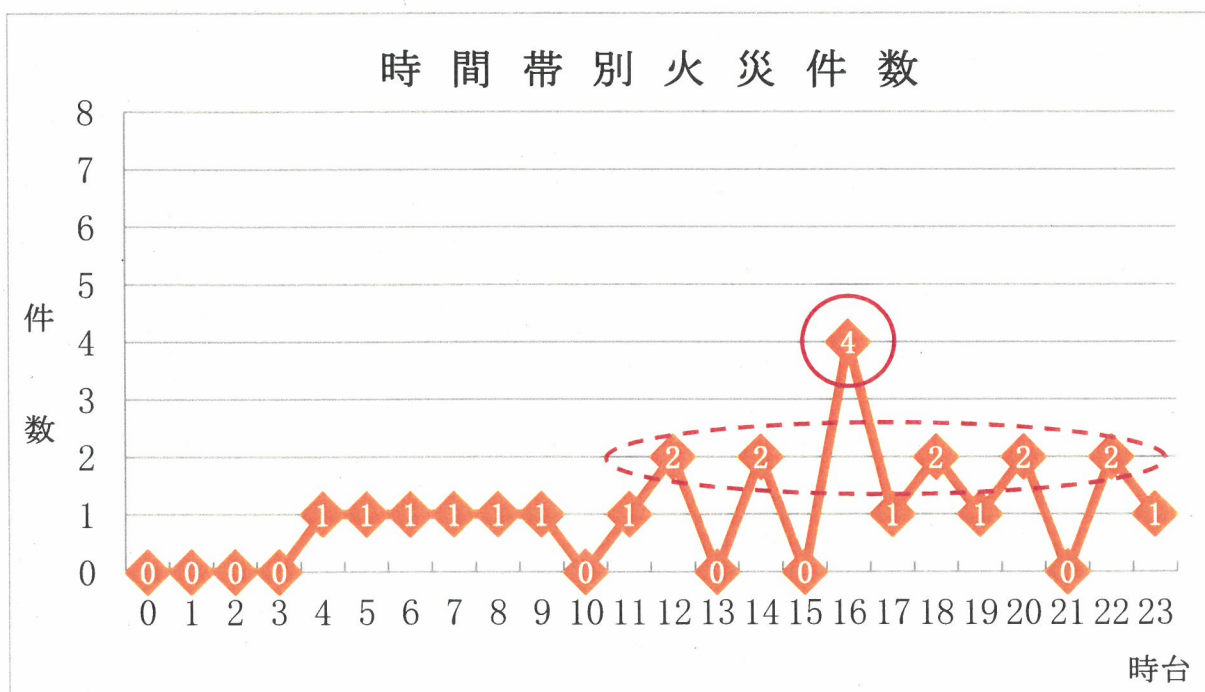
4. 月別火災件数

火災件数を月別にみると、2月（6件）が最も多く、7月（0件）が最も少ない月となっています。



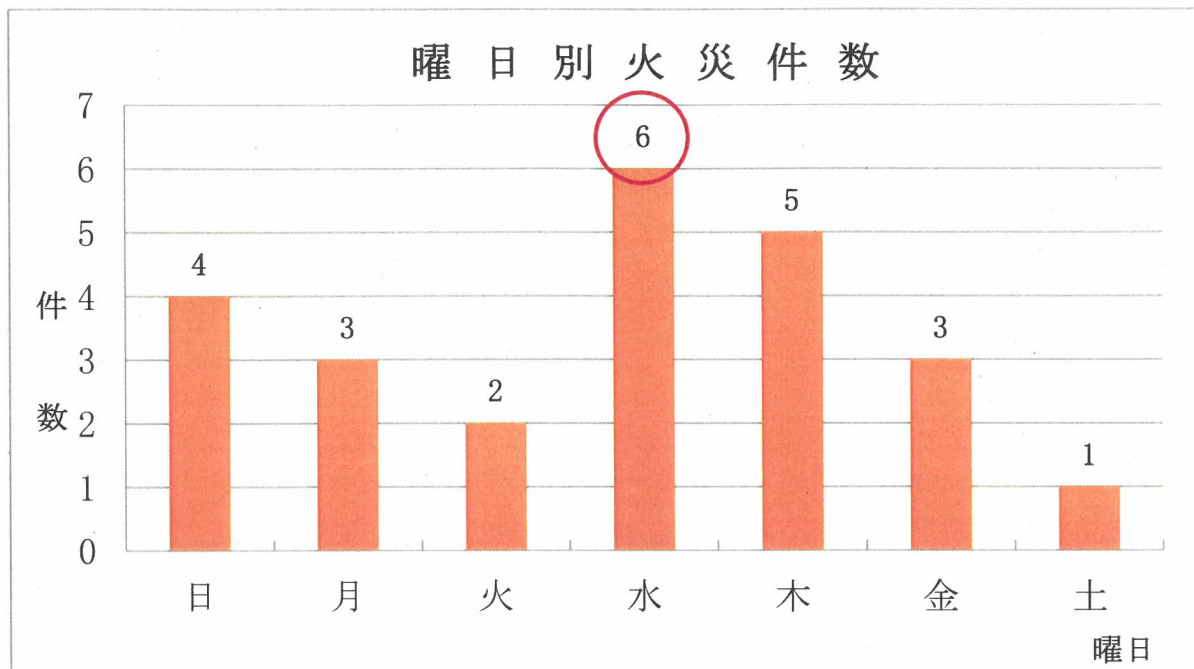
5. 時間帯別火災件数

火災件数を時間帯別にみると、16時台（4件）が最も多く、次いで12時台、14時台、18時台、20時台、22時台（2件）となっています。



6. 曜日別火災件数

火災件数を曜日別にみると、水曜日（6件）が最も多く、次いで木曜日（5件）となっています。



7. 覚知方法別火災件数

消防機関が火災を覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報と固定電話からの119番通報（10件）が多くなっています。

覚知方法別	件数	割合
119(携帯電話から)	10	41.7%
119(固定電話から)	10	41.7%
事後聞知	3	12.4%
警察電話	1	4.2%
加入電話	0	0.0%
計	24	100%

8. 校区別火災件数

校区単位での火災発生件数です。

- ・川西地区： 8件
- ・川東地区： 6件
- ・上部地区： 10件

大島 0

若宮 2	宮西 2	新居浜 1	高津 1	浮島 1	垣生 0
惣開 1	金子 2		神郷 4		多喜浜 0
金栄 0					

大生院 1	中萩 3	泉川 3	船木 1
角野 2			
別子 0			

※若宮及び大島は旧小学校区

9. 月別原因別火災件数

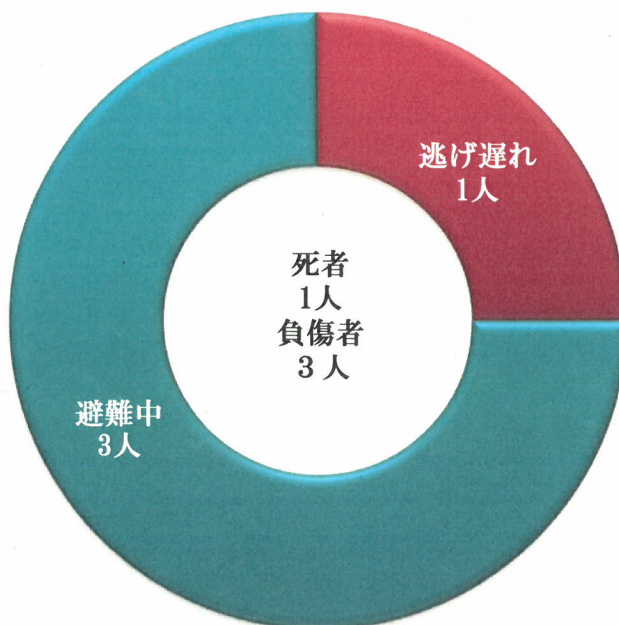
24件の火災を出火原因別にみると、「電灯電話等の配線」「たばこ」「こんろ」が3件と最も多く、次いで「火遊び」「焼却炉」が2件となっています。

原因別	月別 計	月別											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	24	2	6	1	3	2	3	0	1	1	1	3	1
電灯電話等の配線	3	1					2						
たばこ	3	1	1						1				
こんろ	3		1			1						1	
火遊び	2		2										
焼却炉	2				1							1	
ストーブ	1		1										
放火の疑い	1			1									
配線器具	1				1								
火入れ	1						1						
衝突の火花	1										1		
その他	3		1			1				1			
不明	3				1							1	1

10. 死傷者の発生状況

火災による死傷者は令和元年中は死者3人、負傷者3人でしたが、令和2年中は死者1人、負傷者3人となっており、比較すると死者が2人減少しています。

また、令和2年中の死傷者の内訳は、逃げ遅れによる死者が1人、避難中の負傷者が3名となっています。



11. 初期消火の状況

初期消火の状況を見ると、初期消火が実施されたのは14件で、そのうち11件が初期消火の効果がありました。

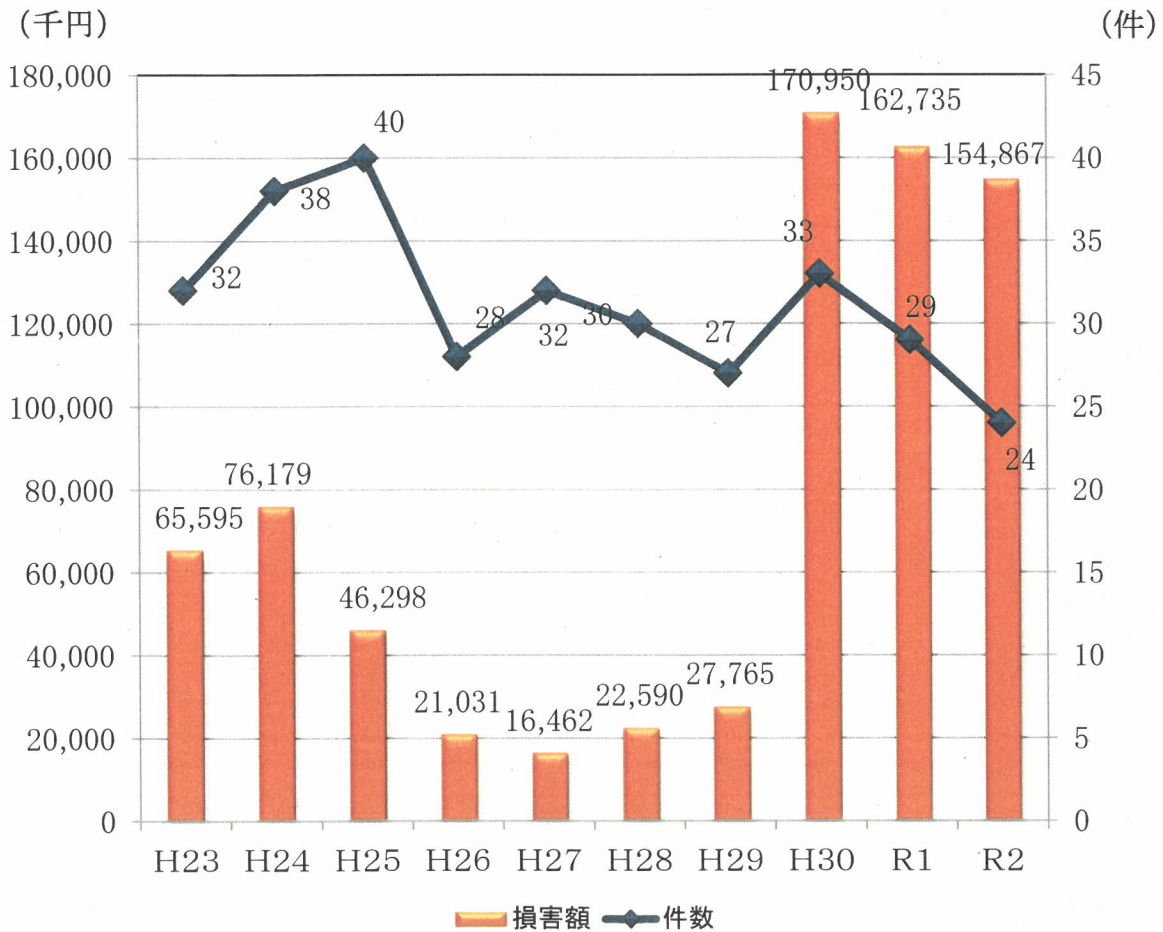
また、使用された初期消火器具等を見ると、「水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた」が8件で最も多く、次いで「粉末消火器」が3件となっています。

火災件数	24件
初期消火実施（構成比）	14件（58%）
初期消火なし（構成比）	10件（42%）

初期消火方法	実施件数	有効件数（有効率）
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	8件	6件（75%）
粉末消火器	3件	2件（67%）
もみ消した	2件	2件（100%）
寝具、衣類等をかけた	1件	1件（100%）
合計	14件	11件（79%）

12. 10年間の火災概況(平成23年～令和2年)

年別	区分	件数 (件)	損害額 (千円)	負傷者 (人)	死者 (人)	出火原因 (件数)
平成23年		32	65,595	5	2	たばこ(4件)
平成24年		38	76,179	3	1	こんろ(6件)
平成25年		40	46,298	4	0	たばこ(7件)
平成26年		28	21,031	2	5	放火の疑い(5件)
平成27年		32	16,462	5	0	火遊び(5件)
平成28年		30	22,590	8	1	ストーブ、こんろ、 内燃機関、電気機器 (各2件)
平成29年		27	27,765	6	2	電灯・電話等の配線、 たばこ(各4件)
平成30年		33	170,950	5	1	放火の疑い、配線器具 (各3件)
令和元年		29	162,735	3	3	放火、たばこ (各4件)
令和2年		24	154,867	3	1	電灯・電話等の配線、 たばこ、こんろ (各3件)



※平成30年から令和2年については、工場内で発生した火災により損害額が増加

13. 消毒用アルコールの安全な取扱いについて

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、手指消毒等のため、消毒用アルコールを使用する機会が増えています。消毒用アルコールは危険物に該当するものもあり、取扱いを誤ると火災等を引き起こす恐れがありますので、注意が必要です。

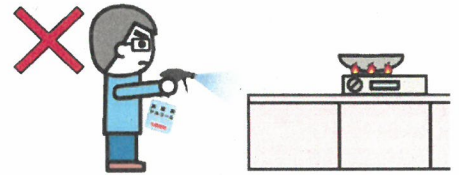
アルコールの火災予防上の特徴

- * 火気に近づけると引火しやすい。
- * アルコールから発生する可燃性蒸気は、空気より重く、低いところに溜まりやすい。

火災予防上の一般的な注意事項

◎火気の近くで使用しないようにしてください。

消毒用アルコールは、蒸発しやすく、可燃性蒸気が発生するため、火源があると引火する恐れがあります。

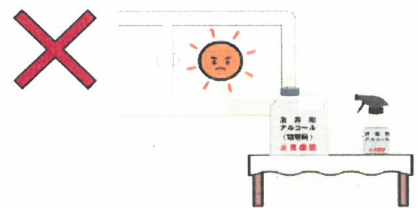


◎消毒用アルコール容器には「消毒用アルコール」や「火気厳禁」などの注意事項を記載してください。

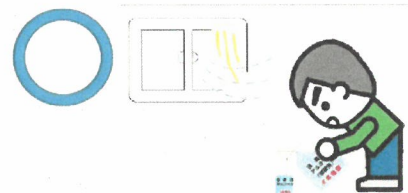


◎直射日光が当たる場所や高温となる場所に保管しないようにしてください。

熱せられると可燃性蒸気が発生して危険です。



◎消毒用アルコールの容器を詰替える場合は、通気性の良い場所や常時換気が行える場所を選び、可燃性蒸気を滞留させないようにしてください。



救 急

1. 救急活動状況
 - (1) 地区別救急出場件数の推移
 - (2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況
 - (3) 事故種別救急出動状況（月別）
2. 応急手当普及啓発活動
3. 救急車適正利用のお願い
4. 救急支援情報サービス

1 救急活動状況

(1) 地区別救急出動件数の推移

令和2年における救急業務の実施状況は、出場件数が5,089件で1日の平均が約14件出動していることとなります。その内、医療機関への受診が必要な傷病者（搬送人員）の数は4,778人でした。昨年と比べると出場件数は244件減少し、搬送人員も221人減少していますが、依然として救急出場件数及び搬送人員にあつては、5,000件及び5,000人近くを推移しております。今後、数年間は同じ傾向になるものと考えます。

(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況

搬送人員を事故種別ごとにみると、急病が2,927人（61.3%）、交通事故が450人（9.4%）、一般負傷が781人（16.3%）、その他が620人（13%）の割合となっています。依然、急病の占める割合が高いことが伺えます。

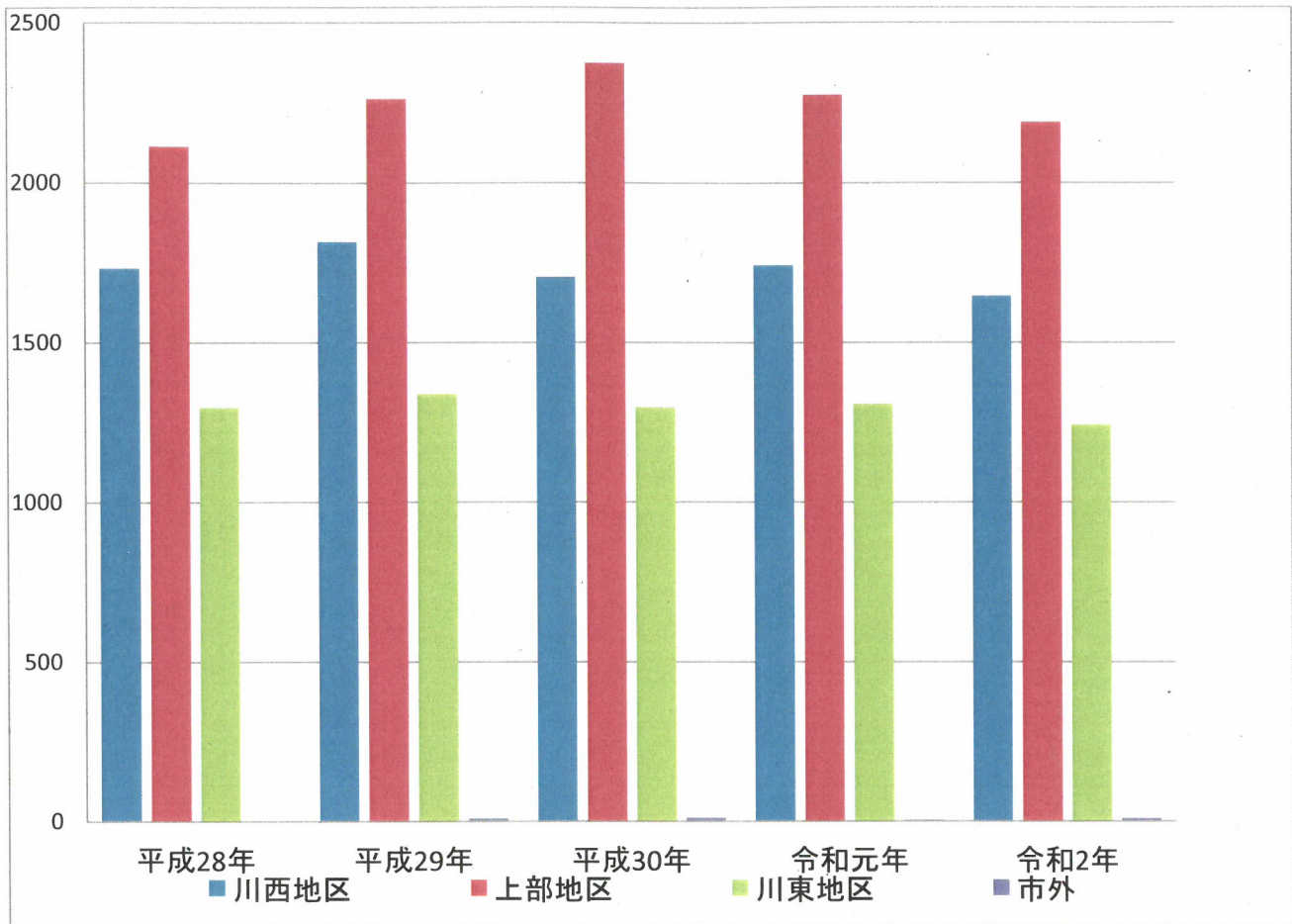
また、年齢区分は新生児が17人（0.3%）、乳幼児が143人（2.9%）、少年が148人（3.1%）、成人が1,276人（26.7%）、高齢者が3,194人（67%）の割合となっており、高齢者の割合が半数以上を占めることが伺えます。

(3) 事故種別救急出動状況（月別）

令和2年中の救急出動件数は、5,089件です。事故種別出動件数は、急病事案が3,107件（61.1%）で最も多く、次いで一般負傷が822件（16.2%）、交通事故が462件（9.1%）の順になっています。

月別の出動件数では1月の出動が497件（9.8%）で最も多く、次いで12月が488件（9.6%）、11月が455件（8.9%）となっています。最も少ない月は5月で360件（7.1%）となっており、1月の出動件数と比較すると137件の差が生じています。

(1) 地区別救急出場件数の推移



地区	年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
川西地区		1,733	1,817	1,706	1,743	1,646
上部地区		2,114	2,263	2,375	2,275	2,190
川東地区		1,298	1,340	1,298	1,309	1,243
市外		1	10	12	6	10
合計		5,146	5,430	5,391	5,333	5,089

(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況

(令和2年)

事故種別	年齢区分	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
急病		1	88	54	668	2,116	2,927
交通			3	50	220	177	450
一般負傷			40	16	118	607	781
その他		16	12	28	270	294	620
合計		17	143	148	1,276	3,194	4,778

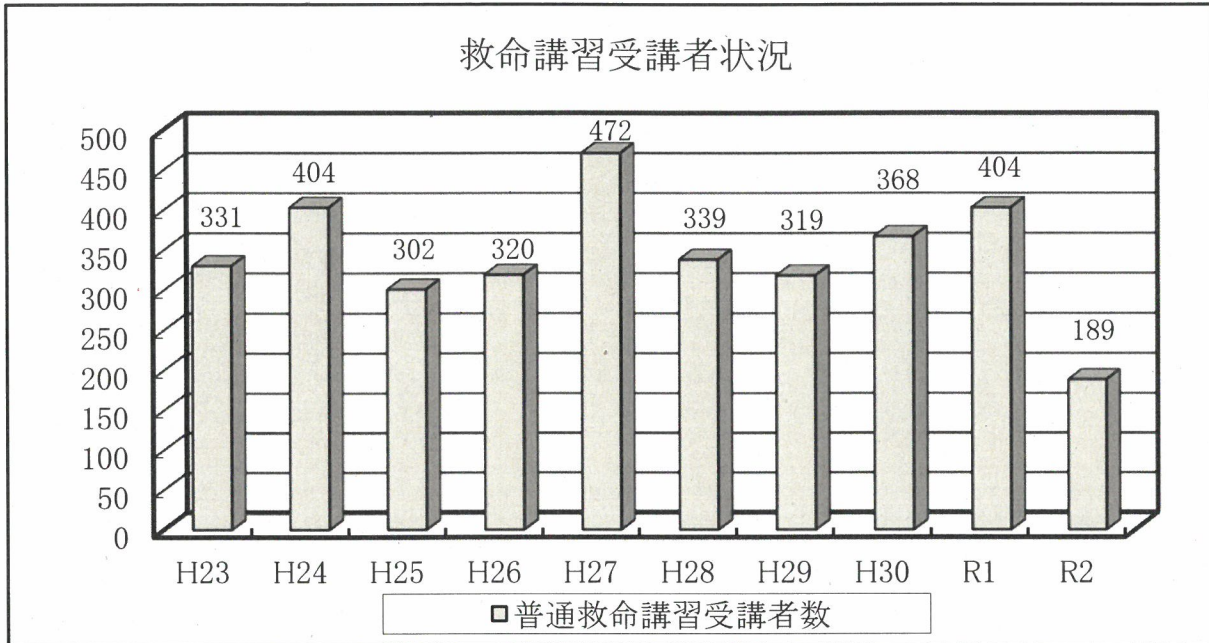
(3) 事故種別救急出動状況(月別)

(令和2年中)

		合計	月 別											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
出動件数		5,089	497	418	388	403	360	400	419	446	412	403	455	488
搬送人員		4,778	474	387	358	374	349	378	393	419	387	380	427	452
火災	出動件数	4	1	1		1							1	
	搬送人員	3		1		1							1	
自然災害	出動件数													
	搬送人員													
水難	出動件数	3					1		1		1			
	搬送人員	1					1							
交通事故	出動件数	462	39	43	27	42	33	38	47	32	36	36	48	41
	搬送人員	450	38	37	27	40	36	36	50	31	34	38	47	36
労働災害	出動件数	52	4	2	5	4	2	5	9	3	3	2	4	9
	搬送人員	52	4	2	5	4	2	5	9	3	3	2	4	9
運動競技	出動件数	26		1	1			2	6	3	5	6	2	
	搬送人員	26		1	1			2	6	3	5	6	2	
一般負傷	出動件数	822	84	67	58	66	41	73	60	68	64	83	78	80
	搬送人員	781	83	65	53	60	41	72	54	63	62	76	78	74
加害	出動件数	24	1	1	5	2		2	3	2	3	1	2	2
	搬送人員	22		1	3	2		2	5	2	3	1	2	1
自損行為	出動件数	58	3	2	6	7	2	6	7	2	6	3	8	6
	搬送人員	40	3	1	4	3	2	5	3	1	4	3	6	5
急病	出動件数	3,107	306	264	240	233	235	229	252	296	259	232	267	294
	搬送人員	2,927	291	248	223	218	223	217	239	280	247	217	246	278
その他	出動件数	531	59	37	46	48	46	45	34	40	35	40	45	56
	搬送人員	476	55	31	42	46	44	39	27	36	29	37	41	49

2. 応急手当普及啓発活動

救命率の向上を図るには、通報から現場に救急車が到着するまでの間、バイスタンダーによる応急手当が必要不可欠です。本市は市民を対象に救命講習会を開催しており、令和2年中に一般救命講習は20回で受講者数は584名、救命入門コースは3回で177名、普通救命講習は8回で189名受講されています。本年は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により講習回数、受講者数ともに例年の約半数になりました。



3. 救急車適正利用のお願い

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。また、救急車で搬送された人の約3割が入院を必要としない軽症という現状もあります。そこで、皆様に上手に救急車を利用いただくため、「救急車を上手に使いましょう ～救急車 必要なのはどんなとき?～」を総務省消防庁のホームページに掲載しております。この中には、救急車を呼んだら用意しておくべきものなど「救急通報のポイント」、重大な病気やけがの可能性のある「ためらわず救急車を呼んでほしい症状」、実際に救急車を呼ぶ場合の「救急車の呼び方」などを載せていますので、救急車を呼ぶべきかどうか判断に困った場合などに、活用していただければと思います。

救急車や救急医療は限りある資源です。みんなで上手に利用し、救急医療を安心して利用することのできる社会を目指していきたくと思います。

*<http://www.fdma.go.jp/>(詳細は総務省消防庁のホームページをご参照ください)

全年齢対応救急受診チャート

4. 救急支援情報サービス

新居浜市HP「Q助」外部リンクバナー

<http://www.city.niihama.lg.jp/site/syoubou/>

総務省消防庁「Q助」案内サイト

https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_6/kyukyuu_app.html



救 助

1. 救助概況
2. 救助活動状況
3. 救助統計
4. 過去5年間の救助概況

1 救助概況

令和2年中の救助出動件数は40件、活動件数は27件となっており、前年と比較すると、出動件数は8件の増加、活動件数は同数となっています。また、救助人員は33人となっており、前年と比較すると7人減少となっております。

2 救助活動状況

(1) 事故種別出動件数・活動件数・救助人員（表-1）

救助出動件数は40件であり、その内訳は、交通事故16件、水難事故3件、機械による事故5件、建物等による事故3件、ガス及び酸欠事故2件、その他の事故11件となっています。

活動件数は、27件となっており、交通事故7件、水難事故3件、機械による事故3件、建物等による事故3件、ガス及び酸欠事故1件、その他の事故10件となっています。

救助人員は33人となっており、交通事故13人、水難事故1人、機械による事故3人、建物等による事故4人、ガス及び酸欠事故1人、その他の事故11人となっています。

(2) 事故種別出動人員・活動人員（表-2）

総出動人員は500人で、1件の事故に対する平均出動人員は12.5人（うち救助隊員4.5人）となっています。

総活動人員は346人で、1件の事故に対する平均活動人員は12.8人（うち救助隊員4.7人）となっています。

(3) 事故種別出動車両等台数（表-3）

出動車両は、救助工作車38台、消防ポンプ自動車28台、指揮車・指令車5台、救急自動車51台、その他17台で、総出動車両は139台であり、交通事故60台、水難事故14台、機械による事故14台、建物等による事故6台、ガス及び酸欠事故5台、その他の事故40台となっています。

(4) 事故種別活動車両等台数（表-4）

活動車両は、救助工作車26台、消防ポンプ自動車17台、指揮車・指令車4台、救急自動車35台、その他14台で、総活動車両は96台であり、交通事故30台、水難事故14台、機械による事故8台、建物等による事故6台、ガス及び酸欠事故3台、その他の事故35台となっています。

3 救助統計

(令和2年中)

表-1 事故種別出動件数・活動件数・救助人員

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
件数区分											
	出動件数		16	3		5	3	2		11	40
	活動件数		7	3		3	3	1		10	27
	救助人員		13	1		3	4	1		11	33

表-2 事故種別出動人員・活動人員

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
出動人員	兼任救助隊員		71	14		20	13	7		53	178
	消防隊員		70	30		9		3		55	167
	救急隊員		78	9		18	9	6		35	155
	合計		219	53		47	22	16		143	500
活動人員	兼任救助隊員		36	14		13	13	4		47	127
	消防隊員		29	30		5		3		45	112
	救急隊員		42	9		12	9	3		32	107
	合計		107	53		30	22	10		124	346

表-3 事故種別出動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
出動 車両 等	救助工作車		17	3		5	3	2		8	38
	消防ポンプ自動車		16	3		2		1		6	28
	梯子車・屈折梯子車										
	化学車										
	指揮車・指令車			1						4	5
	救急自動車		26	3		6	3	2		11	51
	船舶										
	ヘリコプター										
	その他		1	4		1				11	17
合計		60	14			14	6	5		40	139

表-4 事故種別活動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
活動 車両 等	救助工作車		8	3		3	3	1		8	26
	消防ポンプ自動車		7	3		1		1		5	17
	梯子車・屈折梯子車										
	化学車										
	指揮車・指令車			1						3	4
	救急自動車		14	3		4	3	1		10	35
	船舶										
	ヘリコプター										
	その他		1	4						9	14
合計		30	14			8	6	3		35	96

4 過去5年間の救助概況

区分		年別	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
出動件数	火災			2	1		
	交通	24	20	12	15	16	
	水難	2	5	4	2	3	
	その他	11	13	12	15	21	
	合計	37	40	29	32	40	
活動件数	火災			2	1		
	交通	11	13	6	11	7	
	水難	2	4	4	2	3	
	その他	8	7	8	14	17	
	合計	21	26	19	27	27	
救助人員	火災			2	1		
	交通	17	15	12	15	13	
	水難	2	4	3	3	1	
	その他	8	7	12	22	19	
	合計	27	28	28	40	33	

